

共生社会論研究室

研究内容と募集方法について（2021年度入室用）

A 研究内容

1. 環境ビジネスの成功に向けた「情」報発信

環境ビジネスを成功させるためには、生産者や消費者が「やってみよう！」と思えることが最も重要です。「やってみよう！」と思えるためには、楽しさややりがいはもちろん、そこにしっかりとした利益が見込めることが必要です。そうした楽しさややりがいや利益があるということを生産者や消費者にいかに伝えていくか。これが環境ビジネスの成功に向けた「情」報技術です。例えばどのような広告コピーを作ればよいか、参加型キャンペーンなどは効果的か、動画や音楽によって感覚や感情に訴えかけることで付加価値を可視化できるかなどを、座学だけでなく、インドや長野や福島の実習や、ゼミ合宿などで学びます。

2. 理論（ゲーム理論、行動経済学、京都学派哲学、生物進化論、AI論）

理論の研究では、上記の「情」報が不足している状態を「ナッシュ均衡とパレート最適解の乖離問題」として捉えた理解を目指します。つまり自己犠牲ではなく、自己の利益のために他者と協力することで環境問題が解決するというゲーム理論です。その方法として「精神論」ではなく、心理学や脳科学を応用した行動経済学を通じたエシカルマーケティングを学びます。一方で、「人間は好んで利他的に行動することもある」といった感情をもつ人類の本能的な研究（進化論）や京都学派哲学も学び、AI化するこれからの社会に対応できる力を身に着けることを目指します。

3. 実践（ゼミ合宿、海合宿、農村調査実習、インゼミ、海外実習（インド））

コモンズとは、みんなの資源。水、空気だけでなく、歴史的建物、街並み、文化、特産物、地域の人柄、笑顔、、、、みんなが共有している全てのものがコモンズです。これをビジネスとしてWinWinにするためには、現地を訪れ、他者とは何か、信頼とは何か、正義とは何か、価値とは何か、人は何に悩み、何に楽しさや幸せや満足を感じるのか、こうした生きた勉強もしなければいけません。伊藤忠商事、テネリータ、アバンティ、凸版印刷、興和などの一流上場企業から学び、商品企画、デザイン、パッケージ、POPなども含めて販売実践を行います。特にInstagramやECサイトなどを活用する実践を行います。

4. その他

『研究室案内』で紹介している文献に加え、下記も参照。

マッテオ『経済は感情で動く：はじめての行動経済学』

山岸俊男『社会的ジレンマ：「環境破壊」から「いじめ」まで』PHP新書、全体

岡田章『ゲーム理論・入門：人間社会の理解のために』有斐閣アルマ、（主に5,11,12章）

友野典男『行動経済学：経済は感情で動いている』光文社新書（主に2,8,9章）

『AIは「心」を持てるのか』『単純な脳、複雑な私』『感情心理学入門』

『西田幾多郎』『ブラックマーケティング』

B 募集方法

1. 応募条件

通常の演習の他にも行事の多いゼミです。ゼミを大学生活の中心に据える意思のある人に向けています。毎週ディナーコンサル実習を開催します。準公式行事なので参加して下さい。思いやりのある人を歓迎します。

2. エントリーシート

事務室へ「入室希望届」を提出した後、以下の要領で「エントリーシート」も提出すること。「エントリーシート」を提出しなければ3. の入室試験は受けられません。なぜ共生社会論を学びたいか、またそう思ったきっかけ（体験）について800字から1200字程度でワードファイルに作成し、クラス番号氏名（ふりがな）を忘れずに記入して、12月7日（月）午後4時まで（送信側のインターネットの不具合などによる遅延は認めません。余裕を持って提出することを強く勧めます）に m-oka@meiji.ac.jp へ送信してください。受領確認を同日中に返信します。

3. 入室試験

12月9日（水）午後5時10分から6号館4階演習室にて面接試験を実施します。特別な理由がない限り、試験を受けなければ入室は認められません。一人10分程度です。当日はゼミ生（現3年生）も同席します。面接の順番は当日のお昼頃にゼミ室の扉に掲示しますので良く確認して下さい（基本的にはクラス番号昇順）。応募人数によっては夜遅くなる可能性もありますので余裕をもって時間を確保しておいて下さい。

尚、合格した場合は、12月23日（水）16:00からの説明会（終了は夜遅くなります）および新歓コンパ、2月17, 18, 19日（月、火、水）の新歓合宿は必ず参加してもらいますので、今から予定を確保するようにお願いします。

追記：

共生社会論が誤解を与えているかもしれません。共生社会論は、お金や自分の利益を捨てて、社会のために生きる偉い人になろう、とは言っていません。

むしろ人は（私を筆頭に）みな自分がかっこいい。それで良いと考えています。もっと言えば、そういう人間だからこそ、お金で表現できない価値や、社会の利益を大切にすることができるのだ、というのが私の考えです。ただ、今の社会は、システムが不完全なため、あるいは情報伝達スキルが経済活動に追い付いていないため、何が自分のためになるのか、という決断において計算間違いをしてしまっているのです。これはゲーム理論や行動経済学の分野（近年この分野のノーベル経済学賞が多い）が指摘しているところです。コミュニケーションさえしっかりとれば、お金、自分、環境、社会、といった価値がもう少し融合するはずですよ。

卒業後に帰ってくる場所をみんなで作ろう！

ゼミ生一同&岡

就職先（抜粋）

2～6期 サカタのタネ、全農JA、大成建設、三井住友銀行、名古屋大学大学院、ガスコインカンパニー（フジテレビ）、サントリー、就農、JCB、サッポロビール、王子製紙、JAL（CA）、青年海外協力隊、博報堂、旭化成、京都大学大学院（地球環境学舎）、環境省、ロンドン大学大学院、アクセンチュア、富士通、明治大学職員

7～12期 電通、コカ・コーラ、コクヨ、ホクレン、GAP、伊藤忠商事、労金、千葉銀、京都大学大学院（アジア・アフリカ研）、日本年金機構、テレビユー福島（アナウンサー）、博報堂、みずほ銀行、JAL（CA）、リクルート、大和ハウス、無印良品、コマツ、明治大学職員、大日本印刷、敷島製パン、NEC、NTT、バンダイ、マツダ株式会社、読売広告社、国分